

〔法学新報〕第30卷1(337)号 大正9年1月1日

○武道大会 我中央大学剣道部は益々其武威を輝かし陣容愈々堅実を加へて正に金城鉄壁の備を有し都下学生剣道界に於ては云ふも更なり実に全国学生剣道界の覇者たりと云ふも蓋し過言ならず現に其勢力は五段萱島三段見上福原高橋等を初め猛者連意気衝天の勢を以つて文に武に相励む偶々十月中旬明治大学剣道部と本学剣道部との対校仕合を明大道場に催す正審判北島学習院師範副審判小澤武徳会教士明大後見田島四段中大後見萱島五段にて明大方は大将關三段副将出田三段以下鮎川大川各三段の順にて中大方は大将見上三段副将鹿目以下福原高橋の順なり初めより我軍旗色悪く迎も恢復の見込なしと見えし時我軍の高橋出て敵の八将を切りてより七将六将五将の四人を倒して殆ど互角となり我軍の福原決死の勇を奮つて敵の四将三将副将大将の四人を一人にて切り茲に初めて我軍は二人の不戦者を残して大勝せり当日多数の先輩諸士の来援は部員の多謝する所なり十一月二十三日新嘗祭を卜して第十四回大会を大講堂に開く当日は数日來の雨一夜にして晴れ選手の意気未だ戦はざるに既に腕鳴り肉躍る殊に本学剣道大会の誇とすへきは其参集学校数専門学校二十三中学校二十七道場八と云へる多方面と且つ何れも大将副将連相争ふて来戦する事なり、されは他校剣道大会に於

て見得られざる勝負あるを以て苟も斯道に趣味を有する者は必ず来観す当日来賓としては岡野学長馬場兩理事佐藤幹事渡邊子爵を初め斯道の大家眞貝高野中山師範其他三十余名の師範を始め一般来観者堂に溢るるの盛会なりき先つ午前中部員の紅白勝負に始まり対部撰手仕合あり後中等学校三本勝負あり終て中等学校高点仕合に移る一等麻布中学柏原君五人を抜きて金牌を、二等微神堂早川君、三成大成中学片山君、午後は愈々専門学校の本勝負にて本学部員の成績は八割強の勝利なり四段以上は無検証仕合とす

外来四段	小西	有信四段	矢木	帝大四段	木村
戸山四段	畠山	戸山四段	高橋	慶大四段	川副
警察四段	近藤	高師研四段	佐藤	千葉五段	伊能
戸山四段	久保	早大五段	相浦	本学五段	萱嶋

次に今泉師範対各学校大将連の七人掛あり即三段本学見上、四段帝大木村、四段国大矢田、四段戸山高橋、四段慶大川副、五段早大相浦、五段本学萱島此他中山師範の長谷川英信流居合及中山師範橋本教師の杖術型及沼田梅川橋本柴田櫻井各教師の模範仕合あり最後に紅白高点仕合に移り白軍は大将萱島副将木村以下四人の不戦者を残して勝つ高点仕合にては本学高橋八人を切て一等金牌、拓大増尾五人を切り二等太刀、三等本学山中四人を切て稽古衣を受け六時閉会す(委員)

我中央大学運動部の都下大学専門学校中の覇者たることは都下万人の認る所なるか我柔道部に於て最も然りと為す吾柔道部は今春刈田三段關二段を送れとも新進気鋭の太田四段を始め市川

土岐小出佐藤の三段加之樋渡二段の老巧笹本鶴岡菊地大木の新進二段隼の如き村松初段外十数名の初段三十余名の一級以下百数十名の部員を有し今や昨秋に倍する勢力を以て都下柔道界に雄飛せり吾柔道部第十四回大会は去る十一月三十日恰も秋期都下各学校柔道大会の納会の如く本校大講堂に於て盛大に行はれたり左に当日の経過を略述報告せんとす午前八時校内紅白勝負より開始す紅軍大将太田副将土岐白軍大将市川副将小野各軍三十名を率ゆ紅大澤白伊東より始め白の山田四郎三名を、紅の佐々木三郎四名を倒し大に気を吐けり結局紅白大将の引分と為り午前十一時終る次は対部勝負にして重なるもの下の如し

剣道部高橋	法学会有安○	競走部伊東
水泳部浅野○	弁達会上村	水泳部市岡○
競走部富田		
講話会細谷		

午後より四十二組の無段者二本勝負続て有段者(初段十三組、二段十組、三段五組)二本勝負ありたり其間に高師の工藤佐々木両君の講道館極の形あり頗美事なり次は五人掛前田三段対緑、村松の両初段佐藤大木樋渡の三二段なり前田氏は既に定評ある勇将なるか小兵なる佐藤二段奮戦苦闘遂に引分と為りたり午後五時より本校独特の高点勝負を行ひ無段者に於ては大成中学の福田君四名を倒し第一等の名誉を受く本校の鈴木も亦三名を倒し第二等を得たり有段者に於ては高師の今井二段第一等を、千葉医専の武田初段第二等を受けたり右終て賞品授与を行ひ午後七時半万歳声裡に閉会せり当日は三船先生始め講道館高

段者諸君の大多数なる御出席を得当柔道部大会も一段と其光輝を  
加へ得たるは深く感謝する所なり因に当日は師範永岡先生の御母堂  
逝去せられ中途先生の御帰宅を見たりしか先生の御平素殊に当日  
押して御出席ありたる御熱心を感謝し謹て哀悼の意を表するものなり  
(柔道部委員土岐二十八)